

注目ポイント

- ✓先週は、トランプ米大統領の日々変化する関税政策に対する発言が市場を揺るがす中、米インフレ圧力の低下や景気減速感の高まりを受けて、米国では株式が大幅に下落。一方、日本では、混沌とするウクライナ支援問題を受けて高まる地政学リスクが安全資産としての円買いを支える中、公表された今年の春闘の高い賃上げ要求を受けて、日銀の追加利上げ観測がさらに円高圧力となり、日本株も上値の重い状況に。
- ✓今週も、トランプ政権の関税政策やウクライナ支援問題を背景に、予断を許さない状況が続く。市場はグローバルに不安定な展開が想定される中、イベントとしては、米国では物価関連指標(12日:CPI、13日:PPI)の発表が、また日本では新発国債入札(10日:5年、12日:20年)が注目される。
(門倉英司)

①マーケット動向(実績データ)

2025年3月3日

～

2025年3月7日

市場・指標			3月3日 ～ 3月7日		3月7日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	日本	日経平均(円)	37,874	36,814	36,887	-268	-0.7%	
	米国	NYダウ(ドル)	44,034	42,176	42,802	-1,039	-2.4%	
	ドイツ	DAX(ポイント)	23,476	22,320	23,009	+458	+2.0%	

市場・指標			3月3日 ～ 3月7日		3月7日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利(国債)	日本	10年(%)	1.530	1.395	1.520	+0.150	
	米国	10年(%)	4.34	4.10	4.30	+0.09	
	ドイツ	10年(%)	2.93	2.41	2.84	+0.43	

市場・指標			3月3日 ～ 3月7日		3月7日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	米ドル(円)		151.30	146.95	148.04	-2.59	
	ユーロ(円)		161.28	155.60	160.36	+4.09	
	豪ドル(円)		94.72	91.86	93.35	-0.17	

市場・指標			3月3日 ～ 3月7日		3月7日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	日本	東証リート(ポイント)	1,704	1,653	1,654	-46	-2.7%	
	米国	NY原油(ドル)	70.60	65.22	67.04	-2.7	-3.9%	
		NY金(ドル)	2,941	2,866	2,914	+66	+2.3%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。 休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

②マーケット動向(振り返り&予想)

2025年3月10日 ~ 2025年3月14日

● 株式

上値重く、不安定な展開が続く

日経平均
 【予想レンジ】 36,000 円 ~ 37,500 円

- 先週の日経平均は小幅下落。週初は前週末の急落からの自律反発で始まったものの、大荒れの展開となった米株の影響を受け、日経平均も乱高下。米トランプ政権の関税政策の不透明感や円高進行を受け、神経質な展開が続いた。また、米国の景気減速懸念も投資家心理を弱気にさせ、日経平均は昨年9月以来、約6か月ぶりに3万7千円を割り込んで終了。
- 日経平均は、トランプ政権の関税政策や米景気減速懸念を背景に、今週も不安定な展開を想定する。米物価指標(12日:CPI、13日:PPI)の発表を控え、積極的な売買が手控えられる展開が予想されるが、需給面では、今週はメジャーSQ週にあたり、一時的な下落後に反発する過去のパターンから、目先の底打ちが近いとの見方も。



● 金利(国債)

長期金利は、もみ合いか

10年国債利回り
 【予想レンジ】 1.470 % ~ 1.570 %

- 先週の国内金利は週間を通じて上昇し、週末には10年国債利回りが一時1.53%まで上昇した。米欧の金利上昇や、日銀の追加利上げ観測が金利上昇圧力となった。10年国債入札は不調に終わり、一方で30年国債入札は無難な結果だったが、買い支え材料には乏しかった。また週末には、今年の春闘の高い賃上げ要求が明らかになると、日銀の利上げ観測が強まり、幅広い年限で金利が上昇した。
- 今週の国内金利は、もみ合いか。日銀の追加利上げ観測が根強いが、先週末には、10年国債利回りが1.53%まで上昇し、これで前回利上げ(1月24日)から約0.30%の上昇となり、追加利上げ1回分の折り込みが進んだ。よって今週は金利上昇が一服すると予想する。そのうえでも新発国債入札(10日:5年、12日:20年)で需要を確認したい。



● 為替(米ドル)

円が上値を試す展開か

米ドル/円
 【予想レンジ】 144.80 円 ~ 149.50 円

- 先週のドル円は、大幅な円高ドル安が進展。混沌とする米国のウクライナ支援問題を受けて高まる地政学リスクが安全資産としての円買いを支える中、米景気減速懸念を背景とした米利下げ観測や日銀の追加利上げ観測を背景とした日米金利差の縮小期待から円買いドル売りが加速した。7日には弱い米雇用統計を受けて、一時1ドル=146円台まで円高が進む場面も。
- 今週のドル円は円が上値を試す展開か。米インフレ圧力の低下や景気減速感の高まりにより、米金利が低下傾向にある。また、トランプ大統領の、関税やウクライナ政策を巡る発言が市場を揺るがし、リスク回避の円買いが優勢となりやすい状況。加えて、日銀の早期利上げ観測も根強く、円が上値を模索する展開が続くと予想。



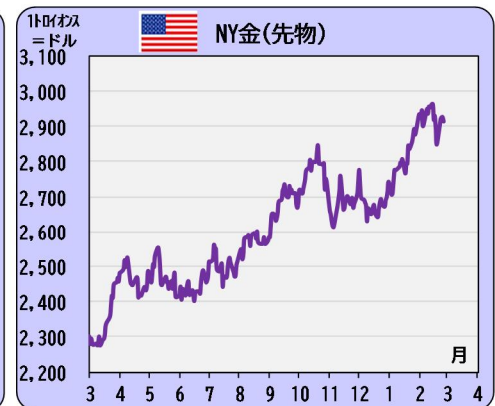
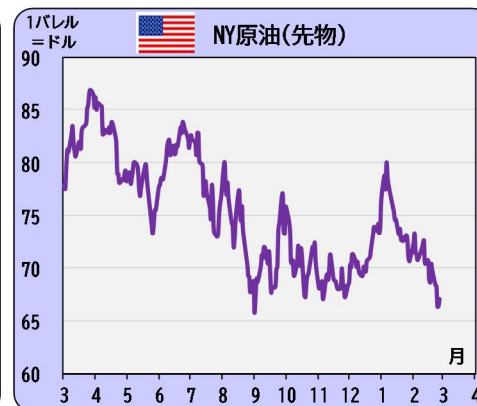
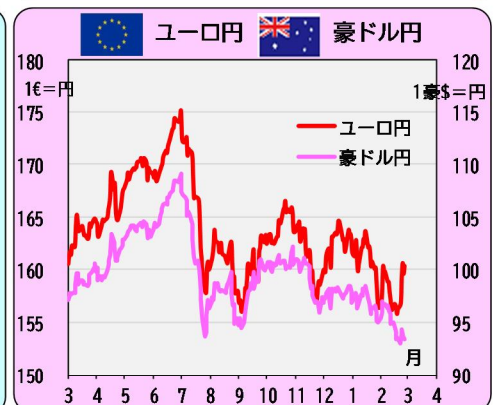
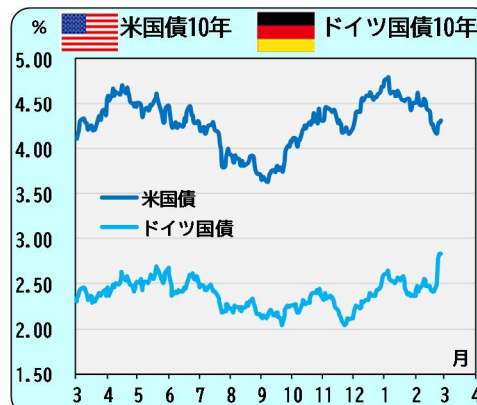
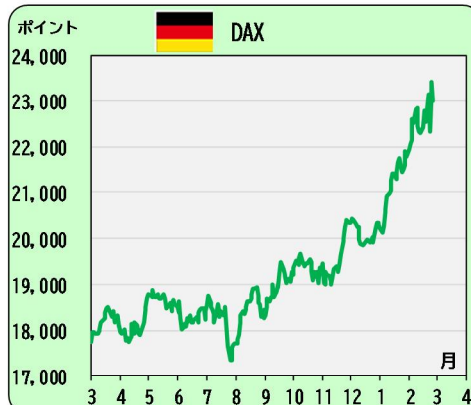
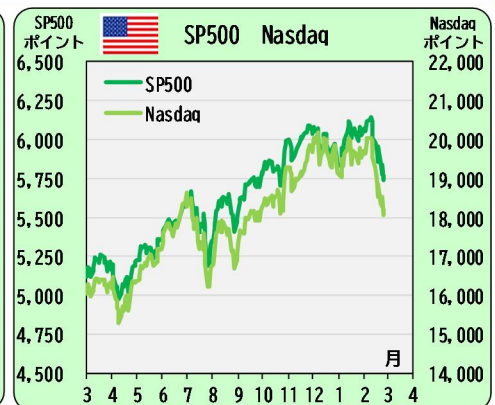
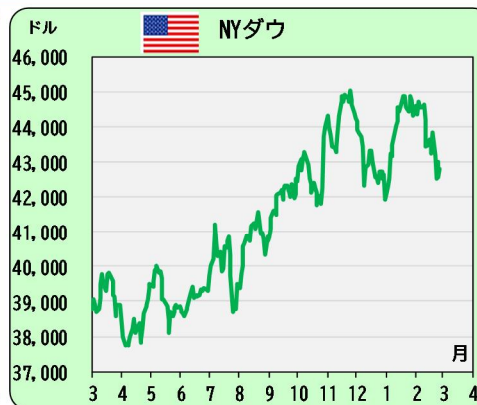
○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月 日	国 内	海 外
3/10(月)	国債入札(5年) 景気動向指数(1月) 毎月勤労統計(1月) 国際収支統計(1月)	
3/11(火)	家計調査(1月) GDP(10~12月)二次速報値	米国: 国債入札(3年)
3/12(水)	国債入札(20年) 国内企業物価指数(2月)	米国: 国債入札(10年) 米国: CPI(2月)
3/13(木)		米国: 国債入札(30年) 米国: PPI(2月)
3/14(金)		米国: ミシガン大学消費者態度指数(3月)速報値



③その他チャート集

直近1年間



※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成

※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PBR	株価純資産倍率
CTFC	米商品先物取引委員会	FTA	自由貿易協定	PCE	個人消費支出
CPI	消費者物価指数	GDP	国内総生産	PER	株価収益率
ECB	欧州中央銀行	IMF	国際通貨基金	PMI	購買担当者景気指数
ETF	上場投資信託	IEA	国際エネルギー機関	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
EU	欧州連合	ISM	米供給管理協会	SQ	特別清算指数
FDI	海外直接投資	OECD	経済協力開発機構	TPP	環太平洋経済連携協定
FF	フェデラルファンド	OPEC	石油輸出国機構	WSTS	世界半導体市場統計
FOMC	米公開市場委員会	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み	WTI	ウエストテキサスインターミディエート(原油)

●ご留意事項

- ・本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客さまご自身でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いいたします。